

熊本地震に DMAT が出動しました

リハビリテーション科 南 秀樹（業務調整員）

最大震度 7 を記録した熊本地震に当院の DMAT（災害派遣医療チーム）が 4/16 から 3 日間熊本県に出動しました。DMAT には「自動待機基準」というものがあり、一定以上の地震が起きた場合には都道府県からの要請が無くても準備を始め、すぐ出動できる体制にしておく事が求められています。4/14 に起きた前震も「自動待機基準」に当てはまる地震でしたが、ここでの派遣要請は九州地方だけで我々は待機のまま朝を迎えました。

4/16 深夜に発生した本震を受け山口県からも派遣が決定し、すぐに最終準備に入り午前 7 時頃病院を出発しました。これまでは 2-3 時間かかっていた準備がわずか 30 分で済み、日頃の訓練の成果が実ったと密かに感激していました。（山口県はマスコミに向けて「周東総合病院など 11 チーム熊本赤十字病院へ出発済」と発表しました）

被災地で我々が行った活動の一つが病院避難の支援です。これは建物倒壊の危険やライフラインの途絶などにより入院継続が困難となった病院から患者さんを転院させる活動です。当初の指令では、19:00 の段階で 149 名が転院待ちで、当日中の避難は困難だろうから翌朝まで入院患者さんの体調管理をせよとのことでした。しかし被災した病院職員の方、自衛隊、消防、DMAT が連携し 23:00 頃までに 149 名全員が熊本県外の病院へ転院することができました。（なお避難が必要だった病院は 5/18 現在、6 病棟中 3 病棟の機能が復旧し入院の受け入れが可能となったそうです）

最後になりますが、病院に帰ってきた時の皆さんの暖かい出迎えは忘れることができません。あの出迎えのおかげで緊張の連続で興奮していた気持ちが落ち着いてすっと楽になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。また、皆さんが通常業務のフォローをしてくださったおかげで被災地に行って活動することができました。DMAT の活動は病院職員全員の後方支援に支えられていることを痛いほど感じました。本当にありがとうございました。

出動隊員 医 師：小川浩司

看 護 師：藤井直江、田中宏壮、中原直美

業務調整員：南秀樹、古賀聖典

参考資料

DMAT は医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね 48 時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。



自衛隊・消防との連携



夜間の転院調整



患者の転院の様子



病院到着時